

指導教員名	後藤 奈々子
-------	--------

活動区分	人材育成・採用広報企画型	連携先	企業

## ～ 人材の採用・育成 ～

### 活動の様子



### 企画・活動概要

- キックオフミーティング(4/18)  
企業担当者に来学いただき、プロジェクトの目的やスケジュールの説明を受ける。
- オープンカンパニー参加(8/6)  
三宮にある本社を訪問しITエンジニアの仕事体験。
- 中間発表(10/17)  
『日本人チーム』と『留学生チーム』に分かれ、現状の課題とその解決策について発表。
- インタビュー&撮影(12/10)  
留学生チームが企業訪問し、社長インタビューと社員の一日を撮影。
- 最終発表(1/9)  
両チームが、中間発表からブラッシュアップした新しい採用スタイルについて発表。

### 経緯・背景・目的

「経験を増やす」をモットーとする本ゼミでは、ゼミ生が社会や仕事を身近に感じながら学べるよう、本プロジェクトに取り組むこととした。近年、学生は企業や仕事の実態を十分に理解しないまま就職活動に臨み、不安や迷いを抱えるケースが少なくない。一方、企業側も学生の人柄や成長可能性を知る機会が限られている。こうした課題を踏まえ、新卒採用の新しい形を探ることで企業研究を実践的に行い、社会人と継続的に交流することで働くことの意味や価値を具体的に理解し、自分なりの職業観を育成することを目指す。



### 取り組む課題

- 新卒採用において『現状の採用プロセスでよいのか』という企業側の課題を解決する。調査・実践を通じて、採用プロセス・人材育成体制等を改善し、さらに『X』を活用しての新しい採用方法を模索する。
- <具体的な内容>
- ① 大学生が『どのような気持ちや手順で就職活動をしているのか』を実態調査 目標:100名以上
  - ② 学生目線のアイデアを盛り込んだ広報提案(動画作成・説明会等)
  - ③ 企業を訪問しIT業界体験・実践による業界理解

### 本学(学生)の役割

新卒採用の見直しにおいて「学生の立場を代表する存在」としての役割を担う。まず、就職活動を経験する当事者として、自分自身や周囲の学生が感じている不安や期待、実際にどのような流れで就職活動を進めているのかといった学生目線の本音を調査を通して明らかにする。次に、自身の体験を振り返りながら、「学生にとって分かりやすく、参加したくなる採用・広報とは何か」を考え、動画や説明会などの形で率直な意見やアイデアを提案する。これらを通して、学生は企業と同世代の学生をつなぐ橋渡し役となることが期待される。



### 活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

『日本人チーム』と『留学生チーム』の2チームに分かれ、新しい採用スタイルについて発表した。  
『日本人チーム』はアンケートから探る最適なSNS媒体を提案し、『留学生チーム』は認知不足を解消する“会社が見える”動画を作成し、最終発表とした。両チームとも学生目線を前提に、目的・課題にフォーカスし企業の採用活動や情報発信の改善に直結する提案を目指した。  
本プログラムの課題解決の過程で、課題発見力・提案力・企業分析力を磨き、社会人との交流の中で学生自身の職業観を養うことができた。



### 指導教員および関係者の紹介

#### <指導教員>



経済学部  
経済情報学科  
専任講師  
後藤 奈々子(コトウ ナナコ)  
<専門・担当科目等>  
キャリア科目

#### <関係者・企業等>

株式会社日本ビジネスデータプロセッシングセンター  
経営企画部 人材企画課  
松田 清美(マツダ キヨミ)